



闘  
闘り方 ヒンターランド余話  
闘争前編(一)  
市原野清掃工場建設問題の経過と近況  
幼かりし頃  
老いを美しく

|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 品角 | 田中 | 荒川 | 瀬野 | 西村 |
| 小文 | 豊蔵 | 重勝 | 尚憲 | 泰一 |



永原 誠 画

## 綴り方

## ヒンターランド余話

西村泰一

I

福知山二〇連隊かこの鳥、中隊長が邪険で会わざなきや：大正軍縮のころ、演歌の前身流行歌で大ヒットしたこの曲は、厳しく訓練された山岳兵の切ない歌だが、森巖忠誠は今も生きている。その隊へ応召せよとは。

「赤紙」には、昭和十八年六月一日×時、陸軍第二〇連隊へ入隊せよだ。絶対命令ではあるが、もう少し片苦しくない部隊もあるのに：そうだ一、「思当るところはある。併し、ここも小唄のようなものをもっている。」また負けたか8連隊、金鴉勲章は9れんたい。一日露戦争での実績を人びとが弥次つた。今も遺つていて。「あかんナ。強くても弱おうても危ない」母と妻に冗談で愚痴つていると、台所に声あり。「花見遊山と違いま

す。文句いうてると、憲兵はんが跳んできて、銃殺どっせ」ほんまに。

横丁の悉皆屋の息子が面をだしていた。先月、中支戦線から帰還した伍長勤務兵長。軍隊が好きで、在郷軍人会のいい顔。戦時統制のために商売上がったりでも、筋金入りで忙しい。陰口も好きで、特に私をぼろくそに言歩いて笑っている。どこで焚きつけられたか、一途に向かってくる。私を指してあいつとよぶ。——治安維持法違反。出版法とか何とか、違反だらけで、山科の臭い飯を何年食うてきよったか。まだてんこうせんちゅうて。早ようたら国賊や。そ

私は嘲笑する。スパイにしては筒抜け底ぬけだ。幾ら挑発しても俺には通じないぞ。彼流に発音すれば、何かしてけつかるねン。

II

ツンツンレロレロ、ツーレーロ：新曲が流れ軍歌が流れ。街の噂では出征五百見送り加えて千名をこす。狭い街の旅館は超満員。配給酒と闇酒か。徳利ではしんきくさい。菓缶で、冷やで。目出度い

やらご苦労さんやら一樣に。どの旅館にも華が咲く。ツーレーロでさかんに手をたたくグループ。レロレロは、何とかで、夜中に竿さがすのが面白い。よいのだ。

最近、アノネオッサン、ワシャカナワニヨ、が人気の俳優が口を封じられた例がある。真下飛泉のあの「戦友」も浪曲の一唸り手の「紺屋高雄」もいかん。レロは竿を探して助かった。

まあ一杯、まあまあ一杯。私の町内の住職は少尉から中尉に昇つて、中支から帰還した。弾丸「雨飛」のなかを突破してクリークを渡ったとか、坊んぼんに似合わん強者と自己共に認められて、今日は学区別引率長。頭を青く剃つてきて座のまん中に正座。出征する者はもちろん見送りからも前後左右から盃をうけている。酒のし

が和尚の鼻下で旋回している。寸時して、ペタペタと廊下で足首を伸ばした。

「うわッ：立派な奴やなあ。ええ風呂場どす。ときこえて、私は艶しとる。」「光つてる…誰や、馬鹿か阿呆か」「くさい！」和尚はん、どう仕様」「…昔からきいてはいたけど。見るのは始めてや。踏んでも踏まれても、あかんらしい、縁起担ぎ。これがそのミソどすわ」

のった盃を相手の膝あたりで止めおきに。…お返しの仕方が実際に鮮か。武人らしい。…ご住職はいつのまに上達しやはったのやろう。周囲から盃がよつてくる。ええ将校はんにならはつたなア。

III

「氣ちがい水は（妻曰く）ごめん」三人そろって枕をならべ、うとうとしかけていると、耳にはいってくる。

「絶対に女はあきまへん。嫁はんでも女どすがナ。女がでると汚れるとしたもんどうす」中尉殿が断言している。「戦場、つまり士俵にケチがつくとしたもんや。あかアん成る程、そうや、そらそうや。盃

が和尚の鼻下で旋回している。寸時して、ペタペタと廊下で足を早める音。

「なるほど、なんと臭いミソで…」



朕惟フニ我ガ皇祖皇帝國ヲ肇  
ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコ  
ト深厚ナリ

から始まり、「御名御璽」で終  
りました。

すいぶん長いように思われた教  
育勅語の奉読が終りますと、また  
ながながと校長先生の訓示が始ま  
ります。今日の好き日は、二千  
年前、神日本盤余彦命が、大和  
の国は櫛原にて、初代のスメラミ  
コトにつかせ給いし記念すべき日  
で、以後皇統連綿……と、話はつ  
きません。村長はじめ村の有力者  
列席の上ですから、校長先生も張  
りきっていたのでしょう。最後に  
紀元節の歌を合唱して式は終り、  
小さな紅白の饅頭をいただいて帰

合唱しました。校長先生はフロッ  
クかモーニング姿・白手袋で、奉  
安殿に収納されています天皇・皇  
后両陛下の御真影を教頭先生とど  
も奉載して、恭しく講堂正面に  
掲げ、一同御真影に対しても最敬礼  
をいたします。次いで君が代斎唱  
で始まり、教育勅語の奉読に移り  
ます。校長先生は、教頭先生が捧  
げてきた三方の上の二巻をおしい  
ただいて、

文部省唱歌「紀元節」の第一章  
で、現在の建国記念の日に当たる  
二月十一日。腕白小僧たちは羽  
織・袴で講堂に整列し、この歌を  
合唱しました。校長先生はフロッ  
クかモーニング姿・白手袋で、奉  
安殿に収納されています天皇・皇  
后両陛下の御真影を教頭先生とど  
も奉載して、恭しく講堂正面に  
掲げ、一同御真影に対しても最敬礼  
をいたします。次いで君が代斎唱  
で始まり、教育勅語の奉読に移り  
ます。校長先生は、教頭先生が捧  
げてきた三方の上の二巻をおしい  
ただいて、

「あかん、さわるなよ。お前トラ  
ンプでもばばつかみいうやろが  
な。」  
：目がさめた。飲み直そう。  
鼻つまんで、飲むか！  
ペタペタもとの座敷へひきかえ  
す気配。  
座敷の片隅で、おとなしい左官  
屋の声がしていたが。不寝番。  
「起床！」馴れないこえだ。  
「起きて！」  
遠く二〇連隊からもラッパの  
音。  
ルマニ、ヨガアケタ、シーモー  
ターラ…。  
（にしむら・たいいち  
伏見区在住）

雲に聳ゆる高千穂の。  
高根おろしに草も木も。  
なびきふしけん大御世を。  
仰ぐ今日こそたのしけれ。

文部省唱歌「紀元節」の第一章  
で、現在の建国記念の日に当たる  
二月十一日。腕白小僧たちは羽  
織・袴で講堂に整列し、この歌を  
合唱しました。校長先生はフロッ  
クかモーニング姿・白手袋で、奉  
安殿に収納されています天皇・皇  
后両陛下の御真影を教頭先生とど  
も奉載して、恭しく講堂正面に  
掲げ、一同御真影に対しても最敬礼  
をいたします。次いで君が代斎唱  
で始まり、教育勅語の奉読に移り  
ます。校長先生は、教頭先生が捧  
げてきた三方の上の二巻をおしい  
ただいて、

「あかん、さわるなよ。お前トラ  
ンプでもばばつかみいうやろが  
な。」  
：目がさめた。飲み直そう。  
鼻つまんで、飲むか！  
ペタペタもとの座敷へひきかえ  
す気配。

## 幼かりし頃

### 瀬野尚憲

校長先生にとって勅語奉読や御  
真影の保全は精神的にも大きな負  
担であつたにちがいありません。  
気の毒にも、緊張のあまり、誤読  
して辞職された方があつたと聞い  
ています。丸山真男氏は「日本の  
思想のなかで、東大で講師をして  
いたE・レー・デラースの見聞を  
引用しています。その一つは大正  
十二年末におこった摂政宮狙撃事  
件で、レー・デラース氏は事件そのもの  
よりも、その後におこった事件  
処理に注目していたと誌しています。  
事件で、レー・デラース氏は事件そのもの  
が教育勅語の伴奏をかなでてい  
ました。当時の農家は生活環境も  
悪く、まして抗生素・抗菌剤はま  
だ世にでていない時代でしたか  
ら、多くの生徒たちは副鼻腔炎に  
かかり、青渙をたらしていました。  
た。

川時代でさえみられなかつた苛酷  
な鎖鎖反応ではなかつたか。もつ  
とも切腹した者はいなかつたもの  
の）。も一つは、おそらく大震災  
の時であつたろうと丸山氏は前提  
の上、御真影を燃えさかる炎の中  
から、とりだそうとして多くの学  
校長が命を失つたことでした。モ  
レーデラー氏は、その後も進歩的  
なサークルの中でさえ、校長を焼  
死させるよりは、写真を焼いたほ  
うがよいということは全く問題に  
ならなかつたと言つていました。  
丸山氏は「日本の天皇制はたし  
かにツアーリズムほど権力行使に  
無慈悲でなかつたかもしれない。  
しかし帝政ロシアにおいても、社  
会的責任のこのようなり方は到底  
考えられなかつたであろう。も

もちろん、どちらがましかということもではない。ここに伏在する問題は近代日本の精神にも、機構にも決して無縁でもなく、例外でもないということである」と結んでいました。

はたして天皇制がツアーリズムほど慈悲でなかつたかどうかは、しばらく描くとしても、私の

小・中学校時代、社会上層部の天皇制觀はたしかに教育勅語や軍人に賜りたる勅諭に則って、神にも近い敬虔な念を抱いていたと記憶しています。しかし底辺、ことに小作農の人たちは必ずしもそうではありませんでした。

(せの・なおのり  
舞鶴市在住)

## 市原野清掃工場建設問題の経過と近況

荒川重勝

### 一 泥棒まがいの強行着工

一月二〇日未明、午前四時過ぎ、市職員約六〇名、建設作業員約八〇名が建設予定地の市原野(向山)に集結し、暗闇の中で直ちにフェンスや防護柵などを張りめぐらし、監視カメラを配置し、近づく者には片っ端からカメラを「フランシュ」を当てるという異様な雰囲気の中で、京都市は遂に清掃工場の建設に着手しました。その

三日前、「一月二〇日、強制測量

か何かがあると聞いたが、何かあるのか」との地元・市原野自治連合会からの問い合わせに対して、担当課長は「何もありません。何かあつたら言います」と答えていたばかりで、住民にウソをついての強行でした。また、昨年一二月に地元との話し合いが再開され、年明けて話し合いの再開が待たれていた矢先でした。早速、地元・

長が抗議と即時中止を求める声明を市長に出しましたが、泥棒まがいに夜陰に隠れて事を行なう京都のやり方に、住民は憤りを越えています。しかし底辺、ことに市は現在も平然と工事を続行しています。

### 二 地元の取り組み

京都市の新規清掃工場建設計画は、既存工場の改築・整備と将来のごみ量の増加に備えるため、焼却能力日量七〇〇トン(当初計画は九〇〇トン)、破碎能力日量八〇トン、工場棟八階建て地上四〇メートル、煙突地上一〇〇メートルの清掃工場(京都タワービルにほぼ匹敵)を、北山の玄関口、通称市原野(向山)に建設するとい

うものです。一九九一年五月に突然新聞発表され、住民にとってまさに「寝耳に水」の出来事でした。

計画の発表以来、地元・市原野自治連合会と野中町自治振興会は、清掃工場の公共性を考慮し、「賛成・反対」の態度を保留して問題点を解明するという方針を定め、問題の調査研究と対市交渉の



「窓口」機関として「ごみ問題対策特別委員会」を設置し、この委員会を中心に学習講演会や自治会毎の懇談会の開催、大小さまざまなビラ・パンフの発行などを通じて住民啓発を図るとともに、地域ぐるみのリサイクル委員会を設置して、空き缶・空きビン・ペットボトル・牛乳パック・トレーの一斉分別回収(毎月一回)や不用品バザーなどのリサイクル運動を推進し、さらには市議会にごみの減量、分別・リサイクルの実施を求める署名運動(一回目は五万六千名の請願署名、二回目は四万七千名の陳情署名)を展開し、加えて住民自身による「逆転層」観測を実施する(約一年間実施、延べ二千名の住民が参加)など、多面的な取り組みを精力的に展開してきました。

### 三 住民の疑問

ごみ問題対策特別委員会は、一九九一年一〇月、市との交渉開始に当たり、「事業の各段階において、特に環境アセスメントなど重要な作業については事前に住民に十分に説明し、特別委員会の了承を得て進める」・「特別委員会から要請のあった資料・データは、手段の事情がないかぎり提出する」旨の文書確約・確認を市と行い（翌年一〇月に再確認）、これを支えに住民の疑問を市に投げかけてきました。問題点は三点に要約できます。

(1) 第一に、法定保護種のオオタカが舞い、ホタルが飛び交い、計画地内だけでも動物二十六種、植物五種の希少種（環境庁指定など）の棲息が確認されている京都市民の貴重な財産＝北山の豊かな自然と、そこに住む住民の健康と生活をどう守るか、です。高い山に閉まれた盆地で強い「逆転層」が連日のように発生する市原野に、昼夜連続で稼動する京都最大の焼却場を建設し、酸性雨の原因となるチッソ酸化物・イオウ酸化物・塩化水素、さらに「人類が作った最強の猛毒」といわれるダイオキシンなどを含む有毒ガスを

大量に排出したとき、そこの自然と住民の健康にどのような被害が発生するか、です。しかし、市は、これに答えると称しながら、市環境アセスメントに関する住民の提案を拒否し、「特別委員会の了解を得て行う」という確約をも破り、さらには「環境アセスメントと切り離して行なう環境調査だ」などとウソをついて、一九九四年二月三日未明、今回の強行着工と同様に夜陰に乘じて突如、「環境調査」を強行しました。しかし、その内容に多くの疑問があるだけでなく、市は「調査結果報告書」や詳細データーを住民に公表せず、いつの間にか環境アセスメントに流用しました。その結果を審査した環境影響評価審査会「答申」も明確な「安全宣言」をすることができず、重大な警告を発しています。市のデーターと住民が自前で実施した「逆転層観測」で得た膨大なデーターとの突き合わせについても、市はこれを拒否しました。これら一切のことが住民の不安をさらに強めてきたのです。

(2) 第二に、「地球環境にやさしいごみ行政」をどう京都で確立するか、です。従来の「燃やし、埋める」だけのごみ行政を、ごみの排出抑制・減量、分別収

集・リサイクルを基本とするごみ行政へと大転換させなければならぬということは、欧米諸国の人識であり、遅ればせながら政府の基本方針にもなりつつあります。しかし、わが京都では、空き缶を除去して分別収集がなされておらず、「分別」は政令指定都市で最低のレベルにあります。昨年一〇月から空きビンも分別収集されることになりましたが、それでも「分別」が最低のレベルにあることは変わりません。

市原野住民は、この遅れた京都のごみ行政を批判し、「世界的歴史都市」の名に恥じない「地球環境にやさしいごみ行政」を確立するよう強く京都市に求め、前記の市原野住民は、この遅れた京都の

域・第一種風致地区という最も厳しい都市計画規制が加えられる土地に、地上一〇〇メートルの巨大な煙突をもつ地上八階建て四〇メートルの工場を建てるにによる景観破壊の問題です。

(3) 第三に、市街化調整区

### 四 市の強権・住民敵視の行政——チェック機能を果たさない市議会

しかし、市は、住民との文章による明確な確約・確認を平氣で破り、住民の真摯で根拠のある疑問や不安にまともに答えず、重要な資料・データを隠して提供せず、あべこべに事実を隠蔽・歪曲して特別委員会を中傷する宣伝を議会や一般市民に向かって行い、さらには一部住民に「分裂」行動をそそのかし、種々の便宜を供与して支援し、出入り業者などを使って「建設促進」の「要望」や「請願」を出させる「やらせ紛い」の策動をするなど、目を覆いたくな

るような卑劣な行為を重ねてきました。しかも、「オール与党」といわれた京都市議会は、このような行政に対して何らチェック機能を果しませんでした。

これに対して、地元では地区の全所有権者を対象にアンケート調査

(一九九五年)と住民投票(一九九六年)を実施し、投票率九七・七%、「計画賛成」七八・二%、「計画反対」一九・二%の結果を得て、昨年九月、自治連合会は正式に「現計画反対」の声明を発表しました。しかし、市はこの住民の総意を無視し、冒頭の强行着工に及んだのです。

こうして、ごみ焼却場建設問題への取組は、いま、民主主義を蹂躪する凶暴な強権行政と、これをチェックできない市議会をどうするか、――要するに地方自治の民主化の問題としても、一層の広がりを持って展開されようとしています。裁判闘争(原告二七四名)も開始しました。住民の運動は一層力強く継続されていきます。

(あらかわ・しげかつ  
市原野ごみ問題対策特別委員  
長立命館大学教授)

## 総会と例会のおしらせ

4月27日(日)1:30

教育文化センター 204号室

### 総 会

会務報告・会計報告・会則の改正・役員の選任 その他

### 例 会

講 演(仮題)

従軍慰安婦・南京大虐殺と歴史教育

—自由主義史観とは何か—

京都府立大学教授 井口和起 氏

### 会費納入のお願い

同封の払込取扱票により、一九九七年度の会費の納入をお願い致します。会費は会報代とも年額三〇〇〇円、新会計年度は四月一日からです。

前年度の会費未納の方は、払込取扱票の通信欄にその旨を記載致しましたので、会員を継続される方は一是非そのようにお願い致しますが、金額欄の数字を六〇〇〇円に直し、訂正の押印をして、お払込みください。  
すでに新年度の会費を納入されている方には、払込取扱票は同封してありません。  
なお、右の件について、もし誤りがありましたら、お手数ですが事務局までご連絡ください。

闘

## 争 前 編(一)

田 中 豊 蔵

はじめに

私は長い間の夢であったアメリカ移住はどうとう出来ませんでしたが、それでも神戸の勝田汽船の船員として太平洋からインド洋、そして南方方面の各都市をまわり、最後に日本第一の汽船会社・大阪商船の乗組員になれたことは大きなよろこびでした。中でも日本海員組合員として労働者の生活向上のために闘い、あの日本最大の川崎造船の労働争議に参加でき、多くの仲間と出あえたことは大のよろこびでした。ただ残念なことは、鹿児島のカラユキさんに心のこもった手紙をかいて、船長さんや水夫長に世話をなって彼女の行方をさがしたが、今だにわからないということは、青春時代のわすれられない思い出の一つとなつております。

また、私が船員となるにあたって、私の祖父にあたる滋賀県粟田郡笠縫村の村井久次郎方にて借金の無心にいき、長男が小切手を切

つて呉れて銀行の割りにいったら時間がおそいといつて出してくれず、向かいの人につのんで出してもらつたのでした。私はこの当時の大金五十円をもとでに京都から神戸にいきましたが、この親戚にも心配をかけ、京都の親にも大変心配をかけたことを思いかえしています。

私が親に心配をかけたことについては、先ず第一に家を出て船員になった時のこと、第二に労働運動をやり三・一五の共産党弾圧事件でとらわれの身になつたこと、第三には昭和十三年の日本無産党事件に引つかかることです。

私は順を追つて、私の歩んできた道を、思いだすままにつづってみたいと思います。

私は尋常小学校卒業ですから、不自由しました。しかし労働運動や青年同盟の運動で人前でしゃべることを勉強し、一生懸命にビラ配布やポスター張りに頑張りました。おかげで「ビラまき田中」、「頑

張り屋の田中」と言われるようになります。それで自分の一代記について申しのべ皆様の参考にもしていただきたいと存じます。

私はただ今九十二才の高齢ですから思ひがいや、まちがいがあるかもしれません。しかし九十二年の歴史の中で色々に体験をしてきました。この中で私はこの歴史を頭の中にたき込んできました。今思ひ返して見ると、遠いようで近いようにも思います。

この文をかくにあたつて京都の民主運動史の会の湯浅さんから、自分史を書いて見よといわれて、私は毎日、毎日努力してかいてみました。何しろ高齢で眼も大部弱って大きな虫めがねを使って書いた様な有様です。充分意をつくしていませんが、はずかしながら読んでみて下さい。

昭和元年(一九二六)には府県会議員の選挙があり、京都では労農党から府県に奥村甚之助、神田兵三が出て当選しました。愛知県で山崎常吉、長野の松本では小岩井淨、社会大衆党では鹿児島県で富吉英二、福岡で浅原健三、岡山では中原健三、滋賀県では矢尾喜三郎、岐阜で一人、静岡で一人、全部で十三人の革新系候補が当選しました。階級運動は益々盛り上がり、各労働組合も強くなつてきました。京都の評議会も強くなつてきました。京都の評議会も組合員加入が増加し、争議も力強くたたかわれるようになりました。

## 一 労働運動の高揚

大正十五年は昭和元年でもあります。西暦でいうと一九二六年となります。ですから私は二三歳ぐらゐの時です。当時の日本の政党は政友会・憲政会・国民党・無産

党などがありました。無産党は労農党と社会民主主義の党であり、共産党は非合法で表向きの活動はございません。

政友会は首相だった原敬はすで

に暗殺されて総裁は田中義一、憲政会総裁は若槻礼次郎、国民党は大養木堂などの既成政党でした。憲政会の中でも石川県出身の有名な永井柳太郎は「西にレーニン、東に原敬あり」といって議会でもめたりとがおりました。憲政会の島田三郎やあとで反軍演説で除名された斎藤隆夫氏などがおり、男女二十五歳で選挙権をということを主張しておられました。

私は順を追つて、私の歩んできた道を、思いだすままにつづってみたいと思います。

私は尋常小学校卒業ですから、不自由しました。しかし労働運動や青年同盟の運動で人前でしゃべることを勉強し、一生懸命にビラ配布やポスター張りに頑張りました。おかげで「ビラまき田中」、「頑

## 二 私も頑張ろう

東九条の染物労働組合員は、中京、西院、梅津方面の染物屋にいました。中京区千本坊城四条下ルの白田英雄君にいき仕事の世話

をしてもらいました。

染労の役員は増山組合長に役員の臼田英雄君、高木藤之助君、山崎嘉三郎君、上田君、そして常任書記の池上君がいました。池上君は三・一五事件で起訴されました。組合事務所は岩上通綾小路下ル西側にありました。

九条方面の染労の人びとは中国の上海にいきました。上海は染物の盛んな所で中国随一です。世界各国の紡績資本家が何十とあり工場は大変いそがしいのです。世界から労働者が働き集まり、日本からも多数の労働者が働きにいっておりました。日本の資本家としては、日紡、丸紅、伊藤忠、敷島、島津紡など何十もの紡績会社が進出していました。労働者は安い賃金で雇われ、ベトナム、ラオス、タイの労働者も沢山おりました。全上海はこうして各国の資本家や労働者が集まり、トランプやマージャンのたえ間がありません。東九条からいっていた労働者の高原夏樹君は不慮の死をとげました。

(以下次号)

(たなか・とよぞう 中京区在住)

## 老いを美しく

### 品角小文

八七才となつた今、目に見えない変化が、私の心身に打ちよせて来ています。

あれだけ自分を包み、はげましの活力となつて油絵も重荷となり、心とからだを密接につないでいた充実感が、ばらつきを見せ、何もやる気をおこさせない自分が恥じています。

また、一方では、社会人として人々の幸せを願い、社会の発展と平和を願い、長年活躍してきた我が身を思う時、動けなくなつた今、さびしさをとおして、願望はより深まり、日々の世状のあり方と動きにつながっていくのです。

一方では、自分の行動や考え方について一つ一つ責任を持たねばと、自分に言い聞かせながらも、失聴や難聴がはげしい今、出口の見付からない逆境にいる年よりもと思いつつにさびしさと、時に自暴自棄になつたり、無関心になる辛さを高めさせていますが、それらをふまえながらも、老いを美しく生きるために、読む書く動くこと

を蓄えて行きたいと願う身のこの頃であります。身体的な苦しみは進み、横になることが多くなっています。

あの人間的な暖かさに包まれている現実にいる自分を思う時、老いを美しくありたいと思っています。(しなずみ・こふみ)

(上京区在住)

### 紹介

#### 瀬野尚憲

##### 『生きとし生けるもの』

本号にも寄稿されている瀬野会員が、昨年秋に表記の冊子をまとめられました。

その内容は、やもりとうさぎ、ライオンと牛、生と死と、遺伝と環境、脳死、命どう宝、老い、の七章になっていますが、いずれも高進させていますが、それらを生きるために、読む書く動くこと

やもりという爬虫類の生命を慈しむ気持ちから筆を起こされ、戦争中の日本軍、特に石井部隊の蛮行を指弾し、そして戦後においても局地的戦争がやまず、核兵器や原発の危険性が続き、自然破壊が進行していることに警鐘を鳴らします。

その背景に、権力と資本の動きを洞察しておられるところに、筆者の炯眼がのぞいていると言えます。特に脳死基準や臓器移植の問題を中心に、医の倫理を強調され、また臓器売買や幼児誘拐など社会問題への広がりにも目を向けておられます。

この冊子によって、筆者が平和憲法の基軸に立ち、日ごろ最新の自然科学および社会科学の知見を渉猟していることを知り、深い感銘を覚えました。(天野記)

会および会報については、左記へご連絡ください。

〔事務局〕

〒六〇五 京都市東山区今熊野  
南日吉町三九 奥村和郎  
TEL FAX ○七五五六一七四八五